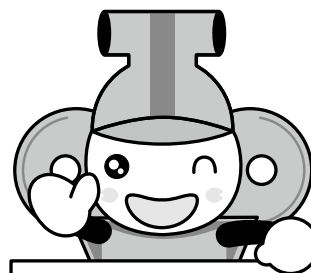


ここがポイント！

そこが聞きたい！！



はにぼん
本庄市マスコット

一般質問

一般質問とは、市の行政事務の状況や将来に対する方針などをたしたり、報告を求めたりするもので、定例会ごとに行われます。

今定例会では12名の議員が質問を行いました。

そのなかから主なものの要旨を掲載いたします。なお、本文中の「見出し」及び「問」は、質問者自身が責任をもって作成したものです。

詳しい内容については、会議録（11月下旬発行予定）を議会事務局、図書館、各公民館及び市のホームページで閲覧することができます。また、一般質問の録画中継は市のホームページでご覧いただけます。



本庄駅北口交番の西側の市有地

答

JR本庄駅北口交番の西側にある線路沿いの市有地

「はにぼんプラザ」の駐車場は満車の時が多いようです。そこで本庄駅北口広場駐車場用地30台分を駐車場として活用できないでしょうか。開放すると無断駐車をする人が出てくるということですが、コミセンの駐車場では、「ここは利用者の駐車場です。無断駐車の場合には必要に応じてレッカー車で移動します。レッカー車は有料です。」という掲示があり、無断駐車は少なかったようです。方法はあるわけですから、空いている公共用地を利用できないかお尋ねします。

問

「はにぼんプラザ」の駐車場は満車の時が多いようです。そこで本庄駅北口広場駐車場用地30台分を駐車場として活用できないでしょうか。開放すると無断駐車をする人が出てくるということですが、コミセンの駐車場では、「ここは利用者の駐車場です。無断駐車の場合には必要に応じてレッカー車で移動します。レッカー車は有料です。」という掲示があり、無断駐車は少なかったようです。方法はあるわけですから、空いている公共用地を利用できないかお尋ねします。

はにぼんプラザの

駐車場について

市議団 大地代表 高橋 和美

つきましては、庁内で協議を進めた結果、本庄駅北口地区の今後のまちづくりの方向性が定まるまでの間については、はにぼんプラザの臨時駐車場として有効活用することといたしました。はにぼんプラザの利用申請時に窓口でお申し出いただき、主催者側で鍵の開け閉めをしていただくことを条件に、8月より貸し出しを開始いたしました。

また、はにぼんプラザの職員からも、満車が懸念されるような大きなイベントを開催する主催者に対しては、駐車台数に限りがあることをスタッフや参加者に周知するとともに、この臨時駐車場の利用についてもご案内し、当日に混乱がないようご協力をお願いして

わがまちの地方版

政労使会議の設置について

公明党代表 小暮 ちえ子

景気の回復について、市内の店舗など、経営者の方にお話を伺うと「まだまだ」という答えが返ってきます。県北に位置する本市は、首都圏内であるものの、景気回復の波及を受ける

この駐車場の活用には、いくつかの課題があります。ひとつは、駅に非常に近いので開放すると利用者が使う可能性が高く、大きなイベントがあった場合には、参加者やスタッフが駐車できないことが考えられます。

大きなイベント用に臨時駐車場を使われる方には、あらかじめ鍵を渡してお使いいただくことにならないを得ない部分もあり、現場を見ていない職員からも無断で駐車されてしまうという懸念があるということなので、やはり現時点では、大きなイベント等がある時に鍵をお貸しするというかたちがベストとは申しませんが、ベターなのかと思っております。

ただ、かつてコミュニケーションセンターには、ここに無断で停めたら罰則があるというような看板があったということですので、引き続き検討したいと考えております。

のには予想以上に時間がかかっているのが現状ではないでしょうか。「(仮称)地方版政労使会議」の設置は、地域の振興や活性化の一助となると見込まれます。地方の実情を誰よりもよく知る方々に

よる、本庄版政労使会議の設置を提案します。市の考えを伺います。

答

国では企業収益の拡大が速やかに賃金上昇や雇用拡大につながることや、消費の拡大と投資の増加を通じてさらなる企業収益の拡大に結びつけることが、経済の好循環を実現するために必要であるとの観点から、経済界、労働界、そして政府が取り組むべき課題について共通認識の醸成を図る組織、経済の好循環実現に向けた政労使会議が設置されました。

この会議では、包括的な課題解決のための共通認識を得ることを目的として、賃金上昇に向けた取り組みや、中小企業や小規模事業者に関すること、また非正規雇用労働者のキャリアアップや処遇の改善、生産性の向上と人材の育成に向けた取り組みなど、経済の好循環の実現に向けて一致協力して取り組むとの認識に至ったこととです。このように行政、経済界、



労働界などが一堂に会した国レベルでの取り組みにより、わが国経済を向上させ、着実に企業の賃上げを促してきたところですが、地方にとっても地域経済は重要なテーマです。もちろん個々の市内企業の賃金について論議し、引き上げを定めるなど、政府の政労使会議そのものを自治体レベルで実施することは極めて困難でありますけれども、地方創生に向けた地域経済の再生は極めて重要な課題で

児玉高校北側よりJＲ八高線南側水路改修について

市議団未来代表 早野 清

問 城山公園のお堀から児玉高校東側につきましては、改修が済んでいます。鹿沼用水等の改修につきましては、平成18年に地元の強い要望もあり、JＲ八高線北側の水路改修が済み次第、事業計画に入れ、年次計画で実施するとの答えをいただいています。鹿沼用水児玉管理組合との調整は重要ですが、平成26年度までの事業はどのようなことが実施されたのか。

また、本年度以後の事業計画につきましてのお考えをお伺いします。

答 本市における水路の現状と雨水対策については、都市化が進み、農地などの減少に伴

す。これは行政のみならず、様々な主体がともに論議し、一致協力して取り組むことが必要であると考えております。

本市としては、まち・ひと・しごと創生を進めるなかで、経済界、労働界等とも議論を交えつつ、埼玉県や近隣自治体の動向も踏まえ、行政、経済界、労働界等が、それぞれ進めるべき具体的な取り組みや、その進め方について研究を重ねてまいりたいと考えております。

い、雨水が地下浸透しにくい状況となっており、このためゲリラ豪雨や台風などで大雨が降った際には、既存の側溝では対応しきれない状況が発生しております。

児玉町八幡山地区の児玉高校北側とJＲ八高線に挟まれた水路は、地形的な要因から排水勾配が緩く、土のままの水路になっているため、土砂等が堆積してしまい、雨水がたまりやすいことから、用水組合により土砂の浚渫（しゅんせつ）や除草が実施されてきました。

しかし、近年では組合員の高齢化が進み、水路の維持管理が難しくなっており、土砂の堆積や草の繁茂により、水路が流れにくい状態となっております。その結果、

住宅が立ち並び、水路には家庭からの生活排水も流入し、流れの悪い場所では臭いや蚊が発生している状況となっております。

本市といたしましては、平成20年から八高線高架下からフレッセイ東側に至る水路の改修に着手しておりまして、平成25年度には八幡山地区周辺の水路のルートや排水施設の容量などの詳細な設計を行ったところで、

この調査をもとに水路改修計画を立て、平成26年度には、この区域の下流にあたり、JＲ八高線北側の水路の改修を行い、平成27年度につきましては、八幡山通

本庄駅北口周辺のまちづくりの取り組みについて

平政倶楽部代表 林 富司

問 地方創生は、自治体自ら進める政策であり、地方を元気にする経済対策であると思えます。現在、市が進めている本庄

り線とJＲ八高線との間の水路改修を進めてまいります。平成28年度、平成29年度は、八高線と八幡山通り線の間の水路を改修していく予定です。それ以降の改修は、今後、その改修をした状況を見ながら検討していきたいと考えております。



駅北口周辺のまちづくりの取り組みについてお聞かせください。また、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫は先人が残した大切な遺産です。この建造物を有効活用することについての考え方を伺います。

今は更地になっている富士機工跡地を買い取り、北口周辺まちづくりの拠点として活用する考えがあるのかどうかお伺いします。

答 本庄駅北口周辺のまちづくりの取り組みについてですが、現在の駅前広場は不整形で、周囲に多くの駐車場が存在してお



改修工事が進む旧本庄商業銀行煉瓦倉庫

り、中心市街地の顔である駅前広場としての魅力を感じられない状況です。一方で、民間事業者による土地活用の機運の高まりや市民活動の活発化により、駅周辺の機能充実への期待が高まっています。

このため、今年度より、駅周辺土地利用等の現況調査や駅前広場の整備に係る交通実態調査を行うとともに、地域の方々や地権者の方々と様々な意見交換を始めたところです。こうした取り組みを進めることにより、駅利用者の利便性の向上と、駅北口の賑わいの創出が図られるような地域の活性化のための事業展開へつなげてまいります。

次に、旧日本庄商業銀行煉瓦倉庫の有効活用については、現在、耐震改修工事を実施しており、インフォメーションスペース、歴史を紹介する展示スペース、多目的に使用できる交流スペースなどの設置を予定しています。この建物を通じて多くの交流を創出してまいりたいと考えております。また、

敷地の南側にある土蔵には公衆トイレを設置し、中山道周辺を訪れる方々の利便性の向上を図ってまいります。

富士機工跡地については、民間企業が保有する土地であり、所有者の富士機工は、会社の姿勢として、移転後の跡地利用が地域にとって有効な活用となることも意識されながら、資産の運用を検討されており、これまでも様々な形で市と情報交換を行ってまいりました。今後とも市と社とで積極的に情報交換を行うなど、互いを尊重しつつ、ともに良い結果になる取り組みを考えてまいります。



アスピアこだま

アスピアこだまの外壁（黒系）

について

金子 喜美子（無党派）

問 アスピアこだまは開館以來、市民の文化活動の拠点として利用され、町のシンボルの存在で20年、30年と私たちの暮ら

しと共にあると思っていたのですが、新たに深刻な問題が生じてしまい残念です。アスピアこだまの外壁の色に對

しての厳しい声が、市民から多く聞かれ、なんで黒なの、なぜあの色にしたの、もっと明るい色の方が良かったのに等々と批判する意見が聞かれますが、なぜ外壁を現在の黒系の色にしたのか伺います。

答 アスピアこだまは、塙保己一記念館を複合する施設としましたので、塙保己一の業績に見合うよう、また、地域のシンボルともなるよう、デザイン面にも力を入れました。多くの市民の皆様からご意見をいただくなかで、外装材として、かつて地域の地場産業であった児玉瓦の質感をモチーフにした煉瓦積みを採用しました。この煉瓦積みは、外断熱材として、空調エネルギーの削減にも考慮し、さらに、建物躯体を保護し建物の長寿命化を図り、エコタウンの実現を目指す本市を内外にPRできる施設となっております。

本市の防災計画と

防災訓練について

富田 雅寿（市議団 大地）

問 本年度に入り、近郊で被害のある、地震、豪雨等が多発しています。以前配布したハザードマップは、ゆっくり目を通す市民も少ないと思います。市民全員に配布できる本市独自の災害時ハンドブックを作成する計画はありますか。

答 また、防災訓練を市全体で形式的に行うのではなく、実践形式で各地域ごとや小学校区ごとで、全ての住民（特に児童、生徒、子育て世代と保護者や高齢者）が参加する形で行う計画がありますか。市では現在、防災に関する理解を深めていただくた



本庄市総合防災訓練

め新たな取り組みとして、市民の皆様に関係した災害への対応についてわかりやすく記載したガイドブック、いわゆる防災ハンドブックの作成を検討しています。防災ハンドブックは、市内の各地域で起こり得る災害について、その特性をわかりやすく例示することで避難行動のタイミングや避難方法など、自らの命は自ら守るという自助の能力を高めることにつながります。多くの市民の皆様が、災害時における被害を最小限に抑えることにつながると考えています。

次に、地域ごとに実施する実践的な防災訓練についてですが、災害の規模が大きくなればなるほど、自らの命は自らが守る自助と、皆で助け支えあう共助が必要となります。地域における防災訓練は、共助にあたりませんが、災害時には、各自自治会ごとに組織されている自主防災隊が、皆で支え助け合う共助の中核となります。

市では、市内全域にわたる自主防災隊について、その育成に努めているところであり、埼玉県と共催で自主防災組織リーダー養成講座を開催したり、防災研修会に講

歯の健康と子ども歯虫歯ゼロのまちづくりについて

堀口伊代子（市議団未来）

問

虫歯や歯周病は防げる病気で、歯周病は認知症や寝たきり、糖尿病や高血圧、心臓疾患など様々な病気の要因と言われています。スウェーデンでは、90%の人が歯のクリーニングなどの予防を行っており、予防という処置に対して、保険診療が認められていない現状の日本の歯科医療制度は、過去30年もの長い間変えようとしてこなかった国のシステムに問題があると指摘されています。そこで本市も歯の健康を掲げ、3ゼロ6ゼロ12ゼロ運動や歯の健康手帳を作るなど、スウェーデン並みに予防歯科に取り組んでほしいかがでしょうか。

答

市では、日常的な歯磨き習慣の獲得や、乳幼児期からの虫歯予防のため幼児期のフッ素塗布、また歯科医師会の協力のもと、訪問歯科診療の試行、高齢者施設への出前研修などに取り組んできました。虫歯の予防には妊娠期からの理解が効果的ですので、

師として職員を派遣するなどの活動支援を行い、地域防災力の強化を図っています。今後も、より多くの自主防災隊に対して、支援を積極的に行ってまいります。

母子健康手帳を交付する際に、乳歯の大切さを記載した本や歯の健康についての冊子を配付し、また妊娠期からの子育て応援メールでも歯の大切さを伝えていきます。乳幼児の各健診や健康相談の際には、成長に合わせた歯の手入れのポイントや必要性等を保護者に理解していただけるよう努めています。

3ゼロ6ゼロ12ゼロ運動についてですが、各節目の年齢で虫歯がゼロであるためには家庭での取り組みが必要です。乳幼児期や学童期の歯の健康を保つことの重要性を理解していただき、多くの方に



小島西土地区画整理事業地内及び周辺の安全対策について

町田美津子（無会派）

問

本庄市は、県内最悪の人身交通事故発生地域である状況が改善されていない。カーブミラーは、事故防止に必要不可欠である。小島西土地区画整理事業地内のカーブミラーの設置数は、小島6基、万年寺9基、下野堂4基である。設置格差が生じている理由は何か。また、消火栓と防火水槽の設置数と設置格差は生じていないか伺う。点検と維持管理の実施状況を伺う。平成27年3月、小島4丁目の建物火災に消火栓は、十分に機能したのか伺う。

答

市では交通事故の防止を図るため交通安全対策用道路反射鏡設置要綱に基づき、カーブミラーの設置をしています。区画整理地内の設置数に違いがあることについては、各地区の面積が異なること、家の密集度や塀の有無などの見直し、通過交通量等、地区ごとに状況が異なるためです。消火栓と防火水槽は、消防庁の

歯の健康は大切なものです。食べることは生の喜びにつながります。歯を健康に保つための動機付けは、健康づくりを推進する上で重要ですので、今後も啓発の方法を検討していきます。

「消防水利の基準」に基づき、小島地区に消火栓6基、万年寺地区に消火栓15基と防火水槽1基、下野堂地区に消火栓26基と防火水槽3基を設置しています。基準では、消火栓や防火水槽は、建物から直線距離で120メートル以下で、消防車が容易に接近できる位置に設置することになっており、この基準で整備していますので地区による格差はありません。

また、点検については、消防法等に基づき、消防本部職員が目視による点検を2カ月に1回、作動確認を半年に1回行っています。

認知症施策の推進と高齢者福祉について

穂田平一郎（市議団未来）

問

毎年増え続ける認知症患者に対し、気軽に相談できる窓口の確保や、家族のための取り組みなどを伺います。また早期



小島西土地区画整理事業地内の公園

点検時に漏水や作動不良等の不具合が発見された場合には、水道課へ報告され、同課で現地確認の上、必要な修繕等を行い、災害時に支障がないよう維持管理しています。小島4丁目の火災の際には、消防本部の3台の水槽付き消防車が放水し、3台の消防車が2カ所の消火栓及び1カ所の防火水槽から送水し、消防団も消防車7台が出勤し、3台が放水しました。消防本部によると消火栓等の水量に不足はなかったとのことでした。

発見、早期診断の方法として、特定健診（集団健診）の中にチェックリストを入れるべきと考えるのがいかがか。

今後、高齢者の一人住まいや単身世帯の方が増えると考えますが、本市の訪問看護、訪問リハビリの回数が増えたりも少なく感じます。本市の現状と今後の施策をお伺いいたします。

答

本市における認知症施策につきましては、講演会の開催等の啓発の取り組みを進めるとともに、専門医による認知症個別相談をはじめとする各種相談事業、認知症サポーターの養成事業を行っています。また、認知症の方や、そのご家族からの相談につきましては、市の介護いきがい課や地域包括支援センターで対応し、医療機関への受診や介護サービスの利用につなげています。特定健診での認知症早期発見のテキスト検査の実施については、特定健診は、生活習慣病予防を目的とした健診で、医師会との調整や人員体制など課題も多く、現時点で取り入れていくことは難しい



と考えておりますが、認知症の早期発見は重要なことであると考えておりますので、今後、早期発見のための機会をどのように整えていくか検討を重ねてまいります。市における高齢者独居世帯の状況は、最新の平成22年度国勢調査では、3008世帯で、今後も急激に増えていくことが予想されるなか、訪問看護や訪問リハビリテ

生活保護(特に住宅扶助)の引き下げについて

柿沼綾子(無党派)

問

一昨年8月から3年間で生活扶助費(食費、被服費、衛生・光熱費)が平均6.5%から最高10%削減され、今年の7月からは住宅扶助費の引き下げが、10月からは冬季加算が引き下げられる。家賃が基準額を超えてしまい、転居を迫られる世帯や人数、市の対応について伺いたい。大家さん交渉して家賃を下げてもらわないと転居だと言われ、困っている方から相談を受けた。政府は無理な転居指導はしないと云っているが、市の丁寧な対応を求める。

答

住宅扶助基準額の改定につきましましては、埼玉県内の市町村ごとに、その限度額が改定されました。今回の改定で、生活状況から見て転居が困難と認めら

る場合、地域において住宅扶助限度額の範囲内での賃貸物件がない場合等、やむを得ない事情が認められる場合は、約1.3倍の特別基準限度額を適用してもよいとされており、また、最低限度の生活の維持に支障が生じないよう経過措置も設けています。本市においては、平成27年4月1日現在、被保護世帯636世帯

のうち486世帯に住宅扶助費を支給しており、今回の改定によつて、家賃が限度額を超える154世帯168人が影響を受けると見込まれますが、この方々につきましては、特別基準の該当、経過措置の該当、どちらかの適用がある方ということで対応しております。今後、例えば新たにご相談のあった方で基準額を超えている方について、特別基準及び経過措置のいずれも適用できない場合は、随時、相談に応じてまいります。やむを得ず転居が必要な場合は、被保護世帯員の意思や生活状況を十分に確認したうえで、適切な住宅

本庄市の観光振興と交流人口の拡大について

巴 高志(市議団未来)

本年度は、本庄市の観光元年にあたり、夏・秋の祭りや各施設に観光客を集めようとしても、本庄市の市民がその歴史と重要性を理解し興味を持たなくは、対外的にPRできないと考えます。

そのためには、各施設の説明員としてのボランティアスタッフの育成や配置が必要ではないかと思えます。このボランティアスタッフの必要性と育成については、市としてどのように考えていますか。観光事業のスタッフを育成するこ

答

各施設の説明員としてのボランティアスタッフの育成や配置については、現在、塙保己一記念館、競進社模範蚕室では、臨時職員等が来館者への説明にあたり、塙保己一先生遺徳顕彰会の中に知識の豊富な方々があり、また、競進社模範蚕室では、今年度の後半に、ボランテ



イア養成講座を予定しております。今後、こうした方々のご協力をいただきながら、ボランティアによるガイドスタッフなどの育成について検討してまいります。

また、お祭りにつきましても、現在、ボランティアによる観光ガイドスタッフの配置や養成は行っておりませんが、今後、本市が観光振興を進めていく上で、ぜひとも充実させたい人材でありますので、美里町、神川町、上里町との広域観光連携を目的に平成23年度に設立した、本庄地域広域観光振興協議会で人材の発掘を始めたところです。また、民間のNPO法人などでも、人材の発掘や養成講

座を実施し、人材の育成に取り組んでいただいております。市といましては、こうした人材の発掘や育成に対し支援することで、観光ガイドなどのボランティアスタッフの充実を図ってまいりたいと考えております。



堀保己一記念館

予防医療について

問

ロタウイルス胃腸炎は、2歳までのほとんどの乳幼児が感染し、激しい嘔吐下痢を伴う胃腸炎で、現在、特効薬がない。ロタウイルスワクチンは、生後6週から6カ月になるまで2回接種のものと、3回接種のものがあって費用は約3万円かかる。医療費だけでなく、保護者が仕事を休まなければならぬ労働損失も考えると、子育て世代の大きな負担となる。

地方創生交付金の少子化対策で

清水 静子（公明党）

公費助成をしていただきたいと思うが、市のお考えをお伺いしたい。

答

現在、ロタウイルスに効果のある抗ウイルス剤はなく、脱水症状を防ぐための水分補給や栄養補給が治療の中心になります。ロタウイルスの感染予防として、乳幼児を対象とした2種類のワクチンが承認されており、医療機関において任意で接種することができます。ロタウイルスワクチンは、2回または3回の接種が必要ですが、費用として2万4千

その他の質問

9月定例会の一般質問で、紙面の都合上、

掲載できなかったものは、次のとおりです。

高橋 和美

・本庄市消防団の充実について

堀口伊代子

・鳥獣被害対策と電気柵の安全確認について

小暮ちえ子

・本市の農業振興について

町田美津子

早野 清

・本庄地域定住自立圏構想について

・市立図書館とはにぼんプラザの駐車場不足問題について

・市立中学校運動部の活動について

・人権施策抜本的見直しは部落問題をどう位置づけたか

林 富司

・本庄市交通安全対策について

榎田平一郎

・合併10年目の検証

金子喜美子

・競進社模範蚕室の環境整備事業に係るタイムスケジュールについて

柿沼 綾子

・本庄市非核平和都市宣言10周年にむけて

富田 雅寿

・公共事業の発注及び備品等の購入方法について

清水 静子

・本庄市の読書の取り組みについて

